

Title	規制緩和後、求められる石油元売会社のコア・コンピタンス
Sub Title	
Author	松本尚志(Matsumoto, Takashi) 矢作恒雄
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1995
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1995年度経営学 第1207号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001995-1207

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名

松本 尚志
(エッソ石油株式会社)

主査 矢作 恒雄
副査 森川 英正
青井 倫一

所属

矢作 恒雄 研究室

規制緩和後、求められる石油元売会社のコア・コンピタンス

日本の石油業界は様々な規制下に置かれてきた業界である。それは石油が長年にわたって一次エネルギーの主役であり、なおかつほぼ100%輸入に依存しているという性格上、安定供給という目的があったからである。こうした事情から日本の石油産業は常に規制の枠の中で戦略策定・実践を強いられてきた。しかしながら、事実上石油製品の輸入を石油元売会社に限定してきた「特定石油製品暫定措置法（特石法）」の1996年廃止により、石油産業は本格的な自由化の時代に突入する。石油元売会社が、製品輸入業者という新たなコンペティターの登場という大きな競争環境の変化の中で生き残っていくには、今までの規制下の戦略とは違った新しい戦略が必要となるのではなかろうか。

そこで、これまでの規制の歴史的な流れを振り返りながら、それらが石油産業全体に、そして元売会社の戦略に及ぼしてきた影響を分析し、この環境変化が今後の石油産業に与える影響、石油元売会社に求められる新しい競争戦略・持つべきコア・コンピタンスを考察することが本論文のテーマである。

競争優位を保持する3つの基本戦略（コスト・リーダーシップ、差別化・集中化）という観点から、元売会社の規制下の戦略を評価すると、どれにもあてはまらないことがわかる。つまり、今までの元売会社は競争を制限する規制により、安住の地が与えられ、特にはっきりした戦略がなくても存続できたことが予想される。しかし、今後は新たな競合の参入に対し、コア・コンピタンスに裏付けられた差別化戦略の必要性を痛感する。